

シリーズ 教室探訪コーナー

鷺迪吟詠会訪問記

平成29年9月11日(月)、阪急宝塚線の池田駅、改札を出たところで広報部員三名(塩路・福永・津曲)が17時30分に待ち合わせ。さっそくスマホで地図検索かけながら向かった先は、池田駅から歩いて8分の所にある「呉服会館」。今回の稽古場訪問は、安田鷺迪先生直接指導の公認鷺迪吟詠会池田分会です。18時から始まります。会館に到着するや、もう既に会員さんは集まっておられました。

俵積田輝孝先生から私ども三人のご紹介をしていただき、私からも皆さんに普段通りのお稽古風景を取材させていただきますので、リラックスしてくださるようお願いいたしました。



お稽古が始まる前に、9月10日の東明祭及び本部研修会に於いて安田鷺迪先生が「宗帥」の称号をいただかれまして、そのお披露目をされました。おめでとうございます！

今回のお稽古は、お昼に行われている俵積田先生のお弟子さんと夜の安田先生のお弟子さんの合同練習として集まって来られました。

まず、巻頭言の唱和をみんなで行いました。それから安田先生による発声練習です。コンダクターで邦楽陰旋法による音階を上げ下げして行われました。特に八の音(裏声)も含めた発声を取り入れておられるところが素晴らしいなと感じました。

今回のお稽古は、「漢江」杜牧でした。安田先生の造詣深い詩の意味合いの説明は圧巻でした。目の前に海のような広大な漢江が見えてくるようでした。この詩をどのように吟じたら良

いかのご説明も人生の悲哀を感じながら吟ずると吟詠も変わってくるという安田先生の詩吟観も解説され、とても深いものを感じました。お一人お一人のワンポイント吟詠指導も念入りに行われ、特にこの度は池田市吟剣詩舞道大会への出吟参加のため、独吟・連吟・合吟の特別訓練も行われました。



そんな吟では面白くない！もっと気迫を込めないと！ 俵積田先生の指導にも熱が入ります。それを安田先生が優しくフォローされながら進めておられました。取材でお邪魔した私たちへのご要望があり、代表して小生が一吟ご披露させていただくことになりました。(実際には、生徒さんのリクエストによる「絶句」一題と得意の「律詩」一題・・・誠に緊張した中での吟詠で小生も冷や汗をいっぱい掻きました！)お稽古が終わった後で喉を潤しに行くからと、誠に気を遣っていただき恐縮いたしました。



鷺迪吟詠会は、ゴールド公認会として200名を擁する会です。指導体制を強化しながら、急速に会員を増やされました。御年80歳をお迎えになった安田先生は小柄なお身体でありながらも、その風格たるや凄いものがあります。現在

は白鷺連合会の顧問であり、関西吟詩の元老として我々の活動を見守っていただいております。身体は幸いにどこも悪くないとのこと。強いて言えば、お酒の量を減らさなければと周囲の心配をよそに、誠に強靱な肝臓の持ち主であられるのです。いつまでも若々しく衰えない心身で吟界をお導きくださいますようお願い申し上げます。

記 塩路澄誠
広報部員 福永洋恵 津曲恍惚

鷺照吟詠会 「岡輝公民館教室」

平成29年9月30日、本日お邪魔する鷺照吟詠会の岡輝（こうき）公民館教室のお稽古は月二回土曜日の午前10時から12時までとのことで、午前7時39分の新幹線こだまに乗り、一路岡山へ私と天田澄慈部員とで教室探訪に参りました。

我々広報部を迎えてくれたのは、大取鷺照先生を始め、4名の男性と3名の女性、そしてテーブルに飾られた可愛い綿の花、金木犀、アンズリュウム、そして吉備団子などのお菓子でした。花の香りは朝から心を爽やかな気持ちにさせてくれました。

さてお稽古の前は、軽く2～3分肩周りを柔らかくする準備体操、足を上げながらの夕焼け小焼けの歌で身体をほぐしていきます。続いて音階を変えながら、まるで歌を歌っているかのような一風変わった「あいうえお」母音の発声練習が5分程度行われました。



今日は近々（11月18日）開催される吉備公民館祭りに向けた構成吟の練習ということで、先生のテーブルにはパソコン、CDデッキ、プロジェクターなど、本格的な音響の用意がなされ

ました。今年で3年目を迎えるという構成吟のテーマは「月を詠う」。月を題材にした漢詩や和歌を教室の皆さんで発表されるとのことで、早速練習が始まりました。

ナレーターは佐藤昌子さん。吟をされてまだ1年5カ月とのことでしたが、発声が素晴らしく、まるでマイクをしのばせているかのような良く響くお声でした。ナレーションに続いて最初の和歌朗詠も佐藤さんが詠われました。吟歴が浅いなどまるで思わせない「天の海に」の和歌は本当にお上手でした。

続いて「静夜思」は名木田幹雄さんと桂木一男さん。今年81歳という名木田さんは詩吟を始め、大きな声を出すのが気持ちいいと始められたそうです。72歳の桂木さんは奥さんの京子さんとご夫婦でされています。「普通公民館にこんな素晴らしい先生はいらっしゃらないよ」と大取先生の声に惚れ込んで楽しく詩吟をされているようでした。

続いては「天の原」の和歌。当日は篠山千代子さんが詠われる予定ですが、本日は欠席の為、今日は代わりに虫明鷺麗さんが、次のご自身の「願わくは」と二曲続けて詠われました。虫明さんが詩吟を始めたキッカケは大取先生の声にビビッときたから！以前は1時間かけて一宮の大取先生の教室に通っていたとのことですが、「遠いから近くにきて」と一生懸命引っ張ってやっとここに来てもらったのよと楽しく話されていました。



続くは、王建作「中秋月を望む」。吟者は河田轟声さんと戸井保郎さん。顔だけが取り柄と笑いを取る河田さんは、関大の吟詩部出身の67歳。会社生活の転勤などで詩吟が途絶えがちだったのを、定年をキッカケに本格再開して7年。畑やカメラが趣味で、また吉備の中山を守る会などでも活躍されているなど大変多趣味で

いらっしゃいます。戸井さんは何と昭和6年生まれの86歳。ご自身の詩吟の記憶は旧制の中学校に行っておられた際に、漢文の先生が時々詩吟を詠ってくれたくらい。でも80を超えてから奥さんに誘われて始められ、大取先生に御指導を受け4年目になると、とてもお元気でいらっしゃいます。

和歌「浅みどり」を詠うのは、桂木京子さん。「静夜思」を詠われた桂木一男さんにご夫婦でまだ詩吟は今回の構成吟で2回目とのことですが、詩吟以外にカラオケや社交ダンス、日舞をされていらっしゃるようで、きっとこれからどんどん詩吟でも様々な場面で活躍なさることと思いました。

さて、構成吟のトリはその名の通り大取鷺照先生。先生の響く素晴らしいお声は、李白作「峨眉山月」を見事に詠い上げられました。フィナーレは唱歌「おぼろ月夜」を全員で熱唱。

この「月を詠う」は、公民館の観衆に詩吟の素晴らしさを伝え、また多くの仲間を増やされることであろうと思いました。

岡輝公民館教室はとてもチームワークがよく大取先生を中心にととても和やかに楽しく吟詠を楽しんでいらっしゃいました。今回探訪に来て分かったのは大取先生が大変愛妻家であること！どんな話が繰り広げられたのかはここでは内緒にしておきますが、男子校では厳しい先生も奥様の前では優しい先生なのだということが本当によく分かりました。

最後に鷺照吟詠会の話をしてくださいました。生みの親である佐藤鷺照先生の元には、伊豆丸鷺洲先生がはるばる岡山まで鈍行で教えにきてくださっていたこと。岡山大学の吟詩部には実に40人以上の学生がおり、大阪の記念大会にも38名の学生がバスで訪れるなどして頑張っていること。

若い方も沢山おられ、またご年配の方も大勢の前で発表されるなどとてもお元気で、鷺照吟詠会はこれからも益々発展されるであろうと感じずにはいられませんでした。

お稽古が終わったあと、大取先生のご自宅近くの御膳屋にご招待くださり、お昼から美味しいお料理に舌鼓を打ち楽しいひと時を過ごさせていただきました。

このたびは鷺照吟詠会大取会長始め、岡輝公民館教室の皆様には大変お世話になり、広報部といたしましても大変有意義な取材をさせていただいたと感謝しております。今後も会の益々

のご発展を祈念いたしております。



《鷺照吟詠会ご紹介》

会名 鷺照吟詠会 会長 大取鷺照(3代目会長 平成20年～)

創立 昭和30年9月 会員数 231名(平成29年度現在)

支部 岡山梢雲 岡山中山 岡山吉照 岡山北
岡山総楽 岡山岡南 岡山東風 岡山有朋
岡山瀬戸 岡山理大 岡山江陽 岡山大学吟
詩部

(会の特徴)

創始佐藤鷺照師の門下が連絡を密にして詩歌吟詠に励み、親睦を図り、併せて人格の陶冶と吟道の向上発展に資する事を目的にして活動している。そして、伊豆丸鷺洲師が提唱しておられた「和の精神」「奉仕の精神」を大切にして、12支部の連合体として活動をしている。

記 佐川駿声
広報部員 天田澄慈

白さぎ地方の話題コーナー

三ツ矢の訓え、そのままに

広島鷺夕会事務局長 石橋 夕藻

平成29年11月3日、10時30分、広島駅地下広場に大太鼓の荘厳な音が鳴り響く。鷺夕会創立45周年記念大会の始まりです。勇壮且つ厳粛な幕開けに、更に祝賀の舞の華やかさが加わり、本大会の期待が高まりました。



会場は、毎年猛暑の候、11年の間、ライブ会場としてきた場所です。

さりながら、たくさんの来賓を招いての記念大会となると、今までのままでは収まりきれず、会場のレイアウト、接待の場所の確認、客席の数など、一つ一つ解決しての今日でした。幸い好天気にも恵まれ、会員吟詠時に着用の半袖ポロシャツのユニフォームでも、何とかしのぎ切れました。

広島をしっかりとアピールできるようにと、「ひろしまじゃ県」と銘打って、歌謡吟、新体詩、創作吟と色とりどりに工夫を凝らしての会員吟詠、県内来賓の先生方の独吟、合吟演舞。

特別出演には、マリア幼稚園から36名の出演、そして太鼓童子の皆さんは20名の演奏。

それぞれにお祝いと励ましのメッセージをいただきました。

会場全体に感動の波が押し寄せていました。



総本部からは、地藏哲暁会長先生を始め、たくさんのご来賓をいただきました。

また、模範吟も頂戴して、客席と舞台が一体化！いよいよ、感動は最高潮に高まりました。

メインは、曾根会長脚本・構成の「大政奉還150年」特に、維新の頃の広島藩の担った役割にもスポットを当てました。

ナレーターは「劇団はぐるま座」のお二人の先生にお願いしました。

限られた空間の舞台で照明もなく、あるのはバックのスクリーンのみ。自分の吟が失敗すると全体に影響が出るのは必至。緊張が走ります。

剣友会の先生方の舞に助けられ、皆無事に吟じ終わりました。



視座を変えて、変化を実行しようとする揺るぎない姿勢を示される総本部のご後援。鷺夕会員の総力。

会場満座のお客様のご声援。

三ツ矢の訓え、そのままに、三つの力の結集で鷺夕会創立45周年記念大会の幕を清々しく下ろすことができました。

史跡探訪の旅

後醍醐天皇と楠公さんの篤き想い

好天气に恵まれた4月の末日、広報かしまし三人娘で大阪近鉄阿倍野橋より特急列車に乗り、1時間16分の旅。千本桜で名高い奈良吉野に到着。桜見物で賑わう駅前から私たちは可愛いバスに揺られ、青嵐に癒されること30分。目指すは後醍醐天皇御陵のある如意輪寺。もちろん世界遺産でもある修験道の聖地で名高い金峯山寺蔵王堂も気になりながらも通り過ぎ、中千本で降りました。このバスも4/17～5/7間の桜の季節のみの運行と聞き、慌てての吟行となりました。

このバスで満開の上千本 奥千本まで行けますが、私達は桜客を見送り中千本から木漏れ日いっぱいの中、所々に少し残る桜も楽しみながら登ったり下ったり。すると「後醍醐天皇の歩かれた道」の看板、あと少しと心弾ませ進むと、なんと素晴らしいシャガの群生、ユリに似た薄紫の花たちが“よく来たね”と微笑んで歓迎してくれているかのようで、一面シャガ。美しい景色に癒されながら、また曲がりくねった山道を歩きました。あの時代に京都からのこの地への道のりは如何ばかりかと、後醍醐天皇に想いを馳せながら、一步一步歩きました。



如意輪寺 正門

今回は楠木正成公嫡子 正行公が四条畷の戦の前に、143名の家来と、後醍醐天皇御陵に手を合わせられ、またその心の内を本堂の扉に書き残された直筆の辞世の句『かえらじと かねて思えば梓弓 なき数に入る名をぞとどむる』が今もあると知り、世界遺産奈良県吉野郡吉野町浄土宗 塔尾山 如意輪寺を訪ねました。教本「小楠公の墓を弔う」(A17-2)の備考文

が引き寄せてくれました。

地図上にもある五郎平茶屋の看板のあたりには茶屋らしきものはなく、山道の所々に点在する墓標が、その時代の営みを想像させてくれるような景色でした。

そしてようやく楠木正行公遺跡 吉野勅願所と書かれた如意輪寺に着きました。階段を登ると期間限定で後醍醐天皇の御自作の木像の特別拝観中でもありました。



如意輪寺 金堂



楠木親子の涙の別れ

今回の目的である「正行公直筆 辞世の句」は宝物殿の中に「扉」そのものがガラス越しに展示され目を凝らすと読み取れました。実物を目にでき感激しました。その前に「正行公一族の判明する名」として、この戦に同行された名に親子の名前の多さに驚きました。そして正成公が天皇より賜ったと伝わる短刀も「正行公短刀」として展示されていました。

数ある展示品の中にもう一つ注目が、「正行公の鎧」です。現物の小ささに目が点になりました。その時の正行公のお姿を勝手に想像していました。

後醍醐天皇の御陵は如意輪堂の上手に宮内庁

管轄で整備され、手を合わせると一瞬、時が止まったかと思うほど静寂でした。寺庭には楠木正成公が後醍醐天皇への忠誠を幼き子正行公に説ききかせる親子の石像に目が留まりました、

「桜井訣別」の絶句そのものでした。

また正行公お手植えの木斛（もっこく）の大木やその横に後醍醐天皇腰かけ石も苔むしていました。

如意輪寺住職 加藤広信御住職の説明では吉野三絶と称される芳野懐古作者の一人藤井竹外先生が御陵に向かって、ご自身の詩「古陵の松柏・・・」と吟じられる場面を5代前の御住職が目にもされ感動されたと、興味深くお話いただき嬉しかったです。

現在の御陵の前は杉の大木に覆われていますが、その時代では松茸がたくさん採れるくらいの松林だったとのお話。今は柏の木も大木になり、なるほどそれで「松柏」なのでしょう。

またその後、戦で衰退したこの御陵を再建されたのは、やはり楠木正成公の血縁にあたる方であったとの説明でした。いついつまでも天皇に仕え御守りされておられる正成公の信念は今も心を熱くさせてくれますね。

この地まで来たからには要塞堅固を誇った正成公のお城「千早城址」を目指し、急行に飛び乗り河内長野まで戻り、いざ千早赤阪村に向かいました。少し強行軍でしたが、駅前から城址登山口行のバスに乗りました。下車するや否や「帰りのバスの時刻表みてよ・・・」と運転手さんに心配して頂き、見るとなんと最終バスまで1時間の猶予しかありません。

片道30分の挑戦です。その城址までのこの石段を目にすると、誰しものが躊躇して無謀は禁物と断念したくなるほどの急階段。しかし熱い思いだけでも届けと、その場で吟を朗詠される団体もあると聞きました。納得の意見です。

でも挑戦したい私たちは登りました。幸か不幸か曲がりくねっているので、先が見えません、あと少しあと少しと熱い思いだけが背中を押してくれました。緩やかとは言えない石段を登りながら、さすが名城千早城ですね。誰も容易くは攻めて来られないその高さはなんと海拔634m・・・、東京スカイツリーと同じ高さです。

登り終えられた喜びとは裏腹に城址とは思えない狭さに驚きました。静まり返ったその場は何も建物はなく見渡せばここから大阪湾も望めるとの説明の立て看板。「千早城址」と刻まれた碑だけが立派に建立されていました。



史跡千早城址の碑

その奥に千早神社が祀られ、今もこの地の唯一の神社。現在も季節折々の祭事が行われているとの事で、地元の方にはこの石段は今も当たり前前の参道と聞き、二度びっくり！！

楠木家紋「菊水」がこの神社の御守りの由来にもなっているそうです。そして受験生に人気なのが「不落千早城」（不落＝おちない）「正成公御兵糧米」の御守りです。

中味のお米は千早神社でお祓いをされた、下赤坂で収穫の棚田百選のお米、ご利益ありそうですね。

不落の名城 千早城址は大阪城と並び「日本百名城」の一つとされ、また正成公が「楠公さん」の名で親しまれている所以が少しわかり、数多い吟の中での楠木正成公の篤い思いや、正行公の健気さを感じながら、うす暗くなる空に駆り立てられ帰路につきました。

福永洋恵部員・津曲恍嫺部員と早朝から夕暮れまでの強行満喫吉野の旅。しかしまだまだ魅力いっぱいの吉野山、上赤坂城跡や下赤坂城跡もゆっくり訪ねたいと思いました。容易に訪れることの出来ない名城千早城址を三人で無事登り終えられた足に感謝しました。



現在の千早城址

記 天田澄慈

広報部員 福永洋恵 津曲恍嫺

児島高德公の忠誠心を祀る作楽神社を訪ねて

機関紙白さぎの冠記事 教室探訪「鷲照吟詠会」の取材に同行した9月30日、取材後佐川駿声副部長と岡山駅から津山線に乗り、1時間30分ゴトゴトと晩秋へ移り行く景色に癒され、津山駅に着きました。

岡山に「後醍醐天皇と児島高德公の伝承の地 作楽神社」があると知り、岡山まで来たからにはと、逸る心で津山駅からはタクシーに乗り、目的の作楽神社に赴きました。



佐楽神社 本殿

後醍醐天皇が隠岐の島に配流となる道中に泊まられたといわれているこの地「院庄」は後鳥羽上皇の荘園であったことから院庄の名がついたそうです。

神社の敷地全体が国指定の史跡「院庄館跡（児島高德伝説地）」と、なっています。

囚われの身となられた後醍醐天皇を助けよう



今も残る 2行10文字

とするも、手が届かない想いを、桜の幹に2行10文字「天勾踐を空しゅうする莫れ、時に范蠡無きにしも非ず」と 律詩 斎藤監物作「児島高德」の7行目「兩行の字」です。(B11-1)

作楽神社（さくらじんじゃ）は広い境内で人家から離れたところで不思議な空気が漂い、木々に囲まれていました。神社の手前には、桜に似させた石の大木に「2行10文字」がくっきりと。きつこの場に桜の大木があったのでしょうね。その大木の上に長い刀が飾られ、忠誠の篤さを今も語っているようでした。

神社に入ると万葉の時代に踏み込んだような鎮守の森。とても美しいお宮さんでした。静まり返った境内の裏手にはモネの絵のような蓮池、ぐるりと一周するとアマガエルやコオロギなど自然の生き物がピョンピョンと、突然の私達の足音に驚いた様子。

少し離れてその神社を両手ついて仰ぎ見る武将の像、そうです「児島高德公」です。厳しい顔立ちに悔しさが滲み出ているように思いました。



児島高德公像

境内には約100本のソメイヨシノが植えられていて、毎年1月中旬には達筆であった後醍醐天皇と児島高德公にあやかり古筆感謝祭（筆まつり）が行われているそうです。

院庄駅までの帰路は人家の庭先の柿の木や野菜畑に話は弾み、距離を感じさせないくらい、のどかな風景でした。

今回も「2行10文字」を目にでき、吉野に移られるまでの激動の歴史の始まりを少し理解出来ました。「2行10文字」を目にされた天皇は隠岐の島への処遇も復活を胸に秘められてきつと苦ではなかったのではないかと思います。

忠誠心篤い足利尊氏公 楠木正成公 新田義

貞公などが鎌倉幕府を倒し、隠岐の島配流の天皇を京都に戻された。その天皇がなされた政は皇族貴族公家に優遇で、力になって助けてくれた武士には不満が募り足利尊氏公の反乱を招いて、南朝北朝の始まりになったと思いました。「2行10文字」を目にされ抱かれた想いを全ての人に平等であれば、吉野へ逃げるようなことにはならなかったかもしれませんね、しかしこれでは物語として語り継がれません。隠岐の島配流が1332年、4年後には吉野へ移られたと知り驚きました。

4月に出向いた吉野如意輪寺での楠木正行公の「辞世の句」や、今回の児島高德公の「2行10文字」を自分で確認できたことは歴史を垣間見て、過去ではなく今も教えを乞うことの出来る貴重な出会いを頂いたように思いました。

色々と感じ学べた貴重な旅で、遠路岡山県津山市まで足を延ばせる機会に恵まれ、心に残る探訪でした。佐川駿声副部長をいっぱい歩かせたウーキング旅でもありました。

記 天田澄慈
広報副部長 佐川駿声



作楽神社本殿横に鎮座する国歌「君が代」ゆかりのさざれ石



境内裏手にモネの絵のような蓮池

第20回記念白鷺女性部吟詠大会を終えて

女性部長 東 本 秋 愛

11月23日（祝）「第20回記念白鷺女性部吟詠大会」

山々も秋の装いを始め、ここ太閤園の庭木もすっかり色づき一段と女性部大会にふさわしく光彩を添えてくれました。

本日は総本部 宗帥伊東鷺伸先生を始め顧問、相談役、参与、副会長、各部長、副部長、各会会長、そして女性部諸先輩の先生方ご多忙の中ご臨席賜り、盛大に開催出来ました事、厚く御礼申し上げます。

また、早朝より遠く浜松、名古屋、豊岡より御参加いただき、総数319名が一同に会し、華々しく、楽しく、和やかに包まれ進行いたしました。

式典、部長挨拶の中で、今月6日松尾鷺恵先生ご逝去のお知らせをいたしました。



思い起こせば、詩吟に夢中になっていた若き頃、幾度も幾度も鷺恵先生のテープを聞き、詩吟仲間と切磋琢磨しながら大会に出場した頃が懐かしく蘇ってまいります。

前回の大会にて、この舞台上で「望立山」を吟じていただきました。

今年もお願いできるものと思っておりましたが願いはかないませんでした。

今回は鷺恵先生のCDより「望立山」を流して会場の皆様方と在りし日の先生を偲び拝聴いたしました。

白鷺の仲間に夢と希望を与えて下さいました。

松尾鷺恵先生有難うございました。

会員吟詠「歩」では、昭和39年発足当時に思いをはせ、時代の背景と共に各会それぞれ衣装も美しく、役員の方の先生方のご協力により順序よく進行致しました。

ミニ構成吟「若き志士の母 野村望東尼」で

は以前より望東尼の生き方に興味がありましたので、自信もなく不安でしたが脚本にチャレンジしました。

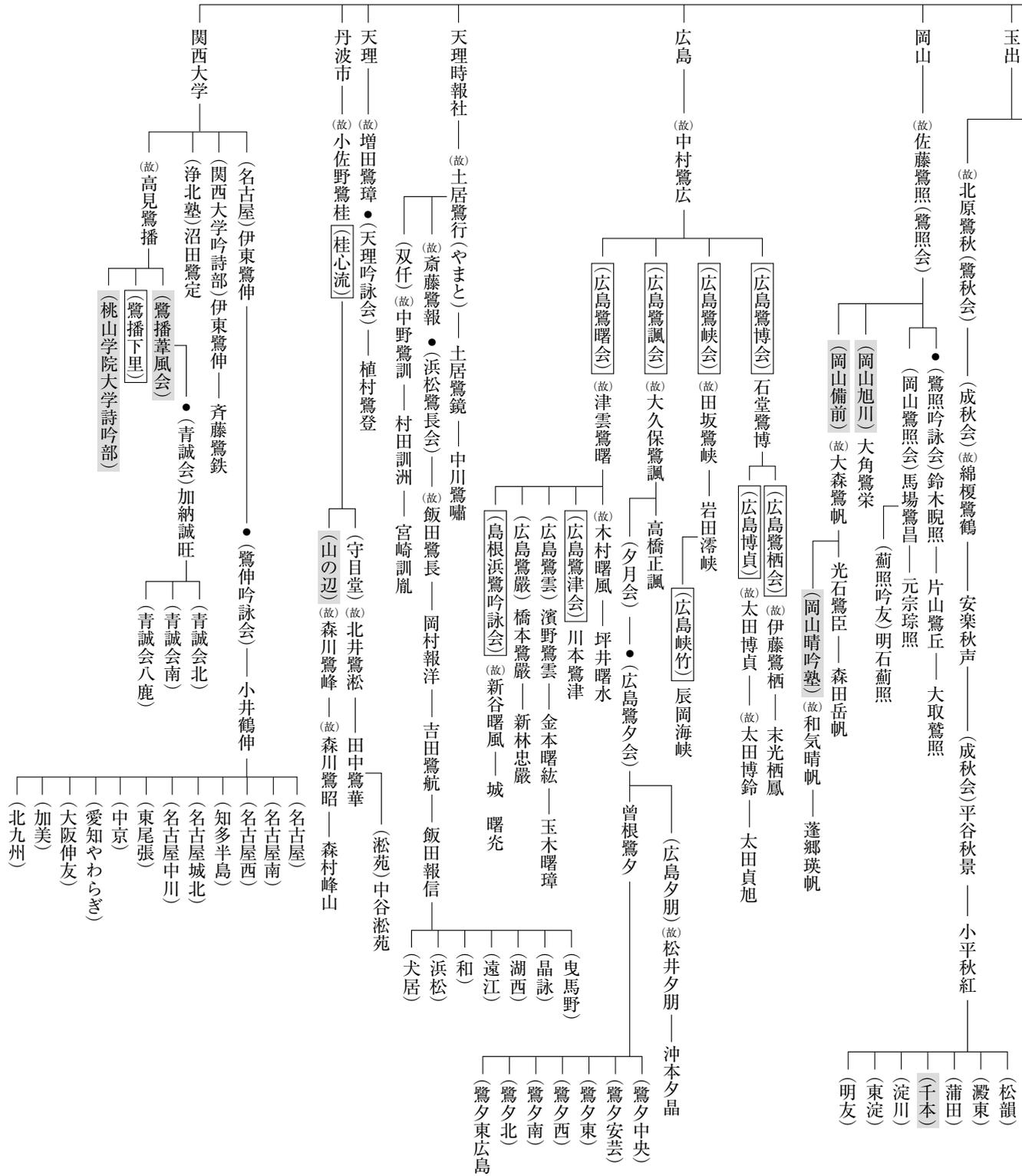
ナレーター、吟、和歌それぞれ御出演頂きました先生方や音響の先生のおかげで舞台が一段と際立って思い出に残る女性部大会となりました事、この上ない感謝の気持ちでいっぱいでございます。

ご協力ご支援頂きました白鷺の諸先生方、惜しみなくお手伝い下さいました役員、幹事の先生方、会員の皆様心から御礼申し上げます。有難うございました。



白鷺連合会組織系統一覽

(平成 29 年 12 月現在)



50年目のわかさぎ

青年部部长 池田 恍 聖

白鷺連合会の会員の皆さまこんにちは！！
日頃は、青年部の活動にご理解いただき誠にありがとうございます。また、青年部に対して叱咤激励をいただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

さて、我が白鷺連合会青年部「わかさぎ」も50歳となりました。昭和43年に発足されて以来、初代青年部長平田鷺攝先生から教えてわたし池田恍聖で24代目となりました。

この間、部員が激減した時期もあったと聞いています。たくさんのOBの諸先生や会員の皆様方のご支援とご協力を賜り現在まで続けてこられたと思っております。

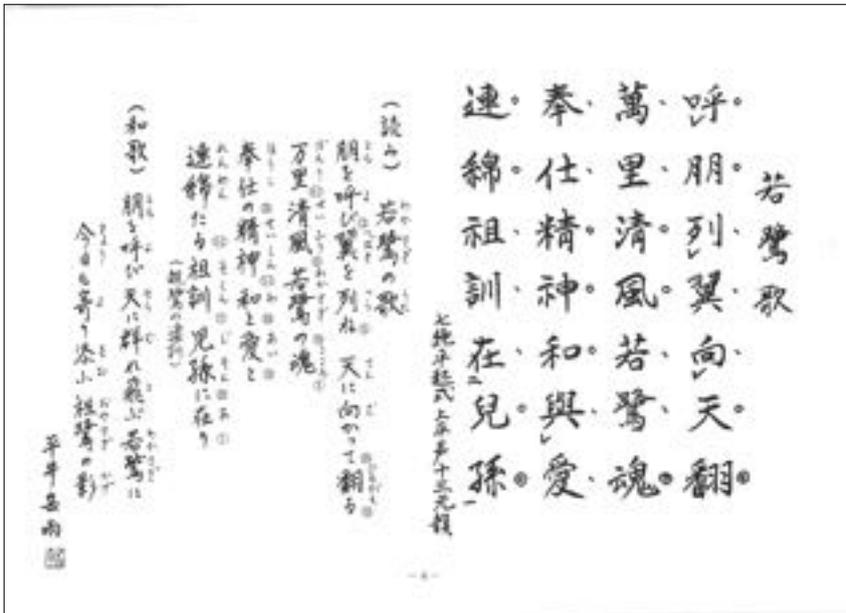
今回50歳の誕生日のお祝いとして、いつもお世話になっています皆様方に感謝を込めて吟詠大会を開催いたします。



今回の大会の見どころは、2年ほど前から計画していました構成吟「傾国の美女 楊貴妃」です。部員一同仕事の合間をぬって一生懸命稽古してきました。乞うご期待です。

最近青年部の吟力も向上しています。処々の大会で好成績をおさめたり、教室を持って指導者になった部員もいます。今後我々白鷺連合会青年部「わかさぎ」は「おやさぎ」の教えと伝統を守り、吟界を引っ張って行けるよう努力と精進を重ねていきたいと思っております。皆様のお熱い熱いご支援とご協力をお願い申し上げます。

日 時：平成30年2月18日(日曜日)10時開演
会 場：あましんアルカイックホール・オクト
テーマ：半世紀 ～ここから～



白鷺連合会各部部員紹介コーナー

<青年部役員> 新年互礼会にて ※現役役員は全員集まると18名です。 (敬称略)



尾上美千恵 部長 副部長
 福永洋恵 和田彩香 坂本住子 藤原博世 池田久志 石本明敬 中岡克典

<女性部役員> 20回女性部大会にて ※役員は全員集まると17名です。 (敬称略)



飯田報彩 田中岳涼 藤木苑悠 新武妹孝 部長 東本秋愛 有山礼春 入江鷗恵
 赤松青篁 奥田璋容 津崎眞郷 土井秋和
 (舞) 加藤扇郊

元宗琮照 片山纓伸 井上容声 清水穩恵

<広報部>



長谷川岩郷

塩路澄誠部長

岳野恍輔

佐川駿声副部長

天田澄慈

福永洋恵

津曲恍嫺

表西鵬吼

編集後記

白鷺連合会創立55周年並びに伊豆丸鷺洲先生生誕130年の大会も無事盛会裏に終了し、新たに60周年記念大会に向かって白鷺連合会の団結心は動き出す事でしょう。

悲しいことは巨星落つ、松尾鷺恵元老・顧問のご逝去でした。

本年2月18日には白鷺青年部第50回記念大会が開催されます。将来の白鷺人材の宝庫である青年部に全員で協力したいものです。

広報部は3月に「ニューしらさぎだより13号」を発刊、青年部大会の特集記事を掲載し、白鷺ホームページにもネットアップ致しますのでご覧ください。

広報部長 塩路澄誠

行事予定

(平成30年4月～31年3月)

平成30年4月～12月

月	日	行事予定
4	8	第57回白さぎ吟詠の集い競吟大会(高槻)
5	12	白鷺連合会理事総会
6	2	関吟定時総会
6	10	特別研修会兼推薦師範講習会
6	24	関吟吟詠普及研修会(九州)
6	24	関吟昇格試験(地方)
7	15	関吟昇格試験(師範)(準師範)
7	22	関吟昇格試験(師範代)
8	19	関吟吟詠普及研修会(岡山)
9	2	関吟本部研修会(師範 課題詩)
9	9	関吟東明碑前祭・本部研修会
10	21	関西吟詩創立85周年近畿地区大会
11	11	関吟全国新人中間層吟詠大会
11	18	関西吟詩創立85周年・西中国地区大会
11	23	白鷺交流会(場所未定)
11	25	関吟本部研修会(準師範・師範代課題詩)
12	9	関吟全国師範代・準師範・師範吟士権大会

平成31年1月～3月

1	12	白鷺連合会新年互礼会
1	13	関吟新春吟詠大会(新年互礼会)
2	2～3	関吟吟道大学講座
2	10	関吟吟詠普及研修会(京滋・福井)
2	17	関西吟詩創立85周年・東海地区大会
2	24	関西吟詩創立85周年・四国地区大会
3	3	関西吟詩創立85周年・九州地区大会
3	24	関吟青年部大会



目次

白さぎ49号

巻頭言	会長〈松尾佳恵〉	2
■平成30年	白鷺新年互礼会	2
■平成29年度	実態調査結果について	3
■関吟総本部主催	全国競吟大会の結果	3
■平成29年度	総会報告	4
■展望	白鷺副会長〈飯田報鷺〉	5
	財務部長〈児玉登春〉	5
■第56回白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告		6
■白鷺創立55周年記念吟詠大会		7
■吟界の巨星	遂に消ゆ!	13
■周年大会		
	公認鷺伸吟詠会 創立10周年&支部設立から55年	
	〈権田啼伸〉	14
■講師・支部長奮闘記		
	志舟会玉出〈門内咲篁〉	16
	鷺迪吟詠会〈俵積田輝孝〉	16
	鷺照吟詠会〈池上美照〉	17
	成秋会〈米田秋澄〉	17
	双仟吟詠会〈仙田博美〉	18
■シリーズ	教室探訪コーナー	
	鷺迪吟詠会池田分会 広報部〈塩路澄誠〉	19
	鷺照吟詠会岡輝公民館教室 広報部〈佐川駿声〉	20
■白さぎ地方の話題コーナー		
	三ツ矢の訓え そのままに	
	広島鷺夕会創立45周年ライブ〈石橋夕藻〉	22
■史跡探訪の旅		
	後醍醐天皇と楠公さんの篤き思い 広報部〈天田澄慈〉	23
	児島高德公の忠誠心を祀る作楽神社を訪ねて〈天田澄慈〉	25
■女性部だより	女性部長〈東本秋愛〉	27
■白鷺連合会組織系統一覧		28
■青年部だより	青年部長〈池田恍聖〉	30
■楽しく・和やかに・一心向上		
	本年もよろしくお願ひします	31
■白鷺連合会各部部員紹介コーナー		
	青年部 女性部	33
■編集後記		34
■行事予定・目次		35



白鷺

No.49

発行 2018年1月25日
発行所 公益財団法人関西吟詩文化協会承認白鷺連合会
発行責任者 松尾佳恵
編集責任者 塩路澄誠

題字／西野楊郷